

# 柏陵

## 新千年紀を迎えて

同窓会長

戸谷全克  
(高一回卒)



新年明けまして御目出度う  
ございます。会員の皆様方  
には益々ご健にて新しい年を  
お迎えの事と心よりお慶び申  
上げます。

特に本年は冒頭にもお書き  
しましたように新千年紀を迎  
えたわけでございますので、  
例年以上に心を新たにしてい  
ることも真剣に取り組んでい  
うではございませんか。幸い  
に暗いトンネルに入っており  
ました我が国の経済もやっとな  
明るい兆しが見え始めてきた  
ようでございますし、インタ  
ーネットなど社会の仕組みを  
変えるような技術革新が急速  
に進むものと思われまます。  
このように改革の時に遭遇  
し、私達といたしましても同  
窓会活動をより活発に行つて  
参りたいと念願致しております

すので、一層のご協力をお願  
い申し上げます。

さて、本年度より新たに取  
り組めます事業といたしまし  
て、来年五月発刊予定の平成  
十三年度版会名簿の製作が  
ございます。五年振りの改定  
及び新会員の追加等には会員  
皆様のご協力が肝要ござい  
ます。「調査カード」が届き  
ましたら、正確にご記入の上、  
すぐに投函して頂ければ幸い  
でございます。また、クラス  
幹事等お世話焼きの方にはク  
ラス又は学年の不明者等の問  
い合わせなどあるうかと思ひ  
ますが、対応方宜しくお願ひ  
申し上げます。

前回に引き続き今回も参考  
資料と致しまして、全終身会  
費納入者名を学年別に掲載さ  
せて戴く予定になっておりま  
す。この会報をお読みになら  
れた方で振込用紙が同封され  
ておりましたならば、奮つて  
ご協力下さいますようお願い

申し上げます。

また、毎回ご注意申し上げ  
ておりますが、新名簿が発行  
されますと、その半年以内に  
必ず同窓会・母校に関係ない  
業者により、職業別を誹り文  
句に「同窓会名鑑」と称して  
高額で内容のとばしい名簿の  
勧誘がございますので、くれ  
ぐれもご注意くださいますよ  
うお願い申し上げます。その  
対策という訳でもございませ  
んが、「職業別会名簿」の  
発行の可否について「アンケ  
ート」を「調査カード」を通  
して採る件を二月の支部長会  
回に諮り、承認が得られた暁  
には皆様方のご協力をお願い  
申し上げます。

次に「八十周年記念誌」の  
事でございますが、市内の小  
森谷茂行氏(中十四回卒)の  
ご尽力により、高名な東山魁  
夷画伯の一番弟子である関口  
雄揮画伯(中十四回卒)に表  
紙絵を依頼申し上げており  
ました処、この程作品をご患  
送戴けました。因みに画伯は  
一昨年、もみじの永観堂で知  
られる京都・洛東の明刹浄土  
宗西山禅林寺派総本山の「画

仙堂」に障壁画をご奉納なさ  
れておられます。本年度は記  
念誌事業にも本格的に取り組  
む所存でございます。

### 総会・支部長会議 新年会日程

- 二月二十日(日) 於 五州園
- 一、支部長会議 午後三時
- 二、記念音楽会 午後四時半  
ギター独奏 久保博久
- 三、新年会 午後五時
- 会費 三千元
- 六月二十五日(日)
- 於 埼玉ランドホテル本庄
- 一、総会 午後三時
- 二、懇親会 午後五時
- 会費 三千元

### 本部役員

- 会長 長戸谷 全克 高一
- 副会長 長立川 大作 中九
- 副会長 高木 敏子 女八
- 副会長 清水 實 中一九
- 副会長 吉田 建治 高二
- 副会長 塚越 寿衛 高二
- 副会長 長竹並栄一郎 併中二
- 副会長 長戸谷洋一郎 高14
- 副会長 教頭 保泉 尚良
- 副会長 教頭 小峰 理介
- 計内野ヨシエ 女16
- 計清水 正一 高6
- 監事 江原 清吉 高4
- 監事 竹内恵美子 高6
- 顧問 岡 祐孝 中9
- 顧問(校長) 郷原 康一

## 平成11年度 埼玉県立本庄高等学校同窓会総会



柏陵消息

新しい教育を求めて

学校長 郷原 康 一



一で始まる年代が終わって、二で始まる年代がやって参りました。これから一千年という長い間、これが続くと思うと、気の遠くなるような身震いを感じます。

同窓生の皆さん、明けましておめでとうございます。日頃の母校に対するご支援に心より感謝申し上げます。

教育は今、第三の教育改革といわれ、目まぐるしく変化する社会の波の中で大きく揺れ動いております。本庄高校もそのうねりのただ中において、新たな教育への模索がなされております。平成一五年からは学習指導要領が全面的に改定され、新たに「情報」「総合的な学習の時間」などの時間が設けられます。「情報」は今日のコンピュータ社会への対応を図ったものですが、「総合的な学習の時間」は社会の変化に伴い、これまでの教科の枠の中ではなし得なかつ

た教育を横断的にしようというものです。例えば、環境、福祉、職業観の育成、産業社会を知る、ボランティア、生きる力など様々なテーマが取り扱われることになりましよう。これらを課題研究的に取り組んだり、ディベートを取り入れたり、グループ別に体験学習をしたりと、いろいろな方法が考えられます。

本高では自己実現を目指した進路学習という点からも大いに期待されるものがあります。具体的には今後の検討に待つこととなりますが、二一世紀を担い、社会の要請に応え、有意な人材を育成するという観点からも、これからの高校教育の果たす役割はますます大きいと言えましよう。私どもも新しい世紀の日本の果たす役割に思いを致し、その職責を果たすべく、いっそうの精進をしたいと考えております。

同窓生の皆様には、ますますご健勝にてご活躍されますようお祈りし、併せて母校に對するいっそうのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。次第です。

仕事の歌

中里 敬 (高九回卒)



私の卒論は石炭紀からベルム紀の石灰岩であったので退職してから石灰岩とはつき合っていないかと思っている。近年では石灰岩と炭酸ガスとの関係でかなり深い研究も成されてきているようであるから、地球温暖化が問題になっている今日においては石灰岩は時代の脚光を浴びる岩石

母校に着任して

高橋 克彦 (高二十九回卒)



昭和四十九年から三年間、自主性を重んじ、自由の雰囲気のある本高で学んだ。当時から服装が自由など、楽しい高校生活であった。野球部に所属し、「甲子園」を夢見た。当時は熊商・深商

だと言っているのかもしれない。石灰岩といえは何と言っても珊瑚石灰岩であろう。海水温上昇に起因する珊瑚の白化現象はあの美しい沖縄の珊瑚も容赦なく襲い、今やつと五割が生き残っているのみと聞いている。その姿を實際に行って見てきたいし、世界の珊瑚の状態も是非見ておきたい。何はともあれ自分の目で確認しておきたいのである。

その上で、なにかできることがあるのか、運動をしている人や組織も知りたい、そんな事を考えながら「炊事・洗濯・掃除」を中心とした家庭の雑事の合間を縫って時間をやりくりしながら勉強している。高校時代の自分ではおよ

が強い時代でしたので、この二校に追いつけ追い越せ、絶対に負けないぞという意気込みで練習しました。いつしか練習が終わるとマウンドに集まり「柏の操」を歌いました。

悩んだ時期もありましたが、仲間にも恵まれ好きな野球を続けることができました。甲子園は夢で終わりましたが、県北大大会初優勝という足跡を残せました。意気込みは後輩達に受け継がれ、翌年の埼玉県大会で見事ベスト4という成績を残してくれました。

二十余年の時を経て、本年度母校に着任いたしました。

を考えられなかったことだけれど...

高校時代といえば一年の時に旧校舎の職員室、校長室の前に広がっていた芝生に担任の「福ちゃん」に引つ張り出されてホームルームで「仕事の歌」の歌唱指導を受けた。

そのときは何がなんだかさっぱり訳が分からなかったけれど学生になって「ともしび」などという歌声喫茶でこの歌を聞き、なんとなく納得した。デカンショなどという歌もあり中身は別としてデカルト、カント、ショーペンハウエルなど何の抵抗もなく受け入れられた時代で、今のような漫画や雑誌類などは何もなかった。もちろん「日の丸」「君が体育館、部室の配置が変わり、旧校舎の跡地に新武道館ができましたが、面影は当時のままで非常に懐かしく思いました。

幸いに部長として野球部に携われ、監督のもと部員達と一緒に練習に励んでいます。

練習後の「柏の操」は、格別です。秋季県大会で久々に一勝(対浦和市立、延長十四回サヨナラ勝ち)することができました。OBの皆様、応援よろしく願っています。

渉外部に所属し、PTA活動と同窓会活動のお手伝いをしています。PTA活動では、

代」などもなく、生徒は幼い感じで入学し卒業時にはかなり生憎気になって教員を頼りにしている風はなかった。教員になってからの目で見ると「教育に専念できる」時代だったのかと思える。



約五十年前の母校の風景(バスケのコート) 当時は屋外

役員の皆さんが子供のため、学校のためと一生懸命活動している姿には頭がさがります。OBの方も多く、役員さまとの交流はとてもいい勉強になります。これからもよろしく願っています。

同窓会担当としていろいろな会に参加しました。活動を通し、同窓会活動に関心のない方も、同窓会活動に関心をもたれ、ご支援くださるようお願いいたします。

母校近況

演劇部

部長 松岡知美



卒業生の先輩方、こんにちは。

私たち演劇部の最近の活動状況ですが、十月三日に埼玉県高等学校演劇祭地区発表会「紅葉」があり、なんと私たちは創作劇を上演しました。創作劇というのは初めての経験で、試行錯誤の連続でした。正直つらいことや大変なこともありました。涙もありました。でも、みんなで色々な困難を乗り越え、本庄高校演劇部作顧問補作「遠くまで行くんだ」ができたのです。当日は、審査員の先生方にも、お褒めの言葉をいただき、私たちの成果は認められました。しかし残念ながら、中央大会出場権は得られませんでした。

の公演で学んできました。私たちの一年間の活動としては、春に春季演劇祭地区発表会「GREEN GRASS」があつて、三年生はこの公演で引退となります。六月には一年生主体の校内公演。九月には文化祭公演。十月は、前述した「紅葉」。そして、今私たちは一月の校内公演に向けて、練習に励んでいます。良い舞台を作るため、私たちは日々精進していくつもりなので、機会があれば、ぜひ私たちの舞台を見て下さい。

野球部

部長 村田俊裕



我が本庄高校野球部は、部員二十二名、マネージャー一名の総勢二十三名で活動しています。今年の秋、新人大会が行われました。その予選で、熊谷商業高校、行田工業高校と共に逆転で下し、見事三年ぶりの県大会を果しました。こ

の二試合で自分たちのチームカラーが少しずつ分かってきました。それがはつきり見えたのが県大会一回戦、浦和市立高校との試合です。試合は六回表、中押しの四点目を取られ三点差とされました。その裏、連打で五対四と逆転に成功。八回表に再び逆転を許し、五対六。しかし、九回裏二死から一点をもぎ取り延長戦へ。六対六の均衡状態が続き、十四回の裏、ついに一点を取りサヨナラ勝ちを収めました。二回戦聖望学園高校には十一対四と敗退したが、この四試合すべてに「粘り」というのが見られました。これはおそらく本庄高校野球部の伝統なのでしょう。やはり、これは今のチームの力だけではなく、先輩方、OBの方々から受け継がれてきたものだと思います。この「粘り」をより自分たちの確かなものにするために、これから始まる冬の練習を頑張っていこうと思います。そして、来年の春季大会にはさらに良い結果を報告いたします。

火見櫓の発見

小瀨沙八香



わが社会科研究部では、毎年テーマを決めて、本庄周辺の民族学を中心に活動しています。

今年のテーマは「火の見櫓」でした。火の見櫓は知つての通り、江戸時代からある、火事を発見し、その方向や距離を見るための高い建物です。しかしその役目は、今や防災本庄の放送に取って代わられ、ほとんど使われていない過去の時代の遺物となつております。現に全国的にも取り壊しが進んでおり、今回は、その点に注目し、本庄・本庄周辺の火の見櫓の把握と保存に努めました。実際に調べてみると、やはり火の見は本庄の町中など取り壊されてしまったものが多く、町の外でも、放置されて取り壊されても誰も気づかないようなものさえある事に気づきました。また、火の見る屋根の形や風見の形が何種類かに分かれており、興味深いことに、地域によって特徴があること

女子バスケットボール部

部長 奥原叶絵



私たちバスケット部は、部員十人にマネージャー一人を加え総勢十一人で活動しています。

夏休み中、合宿を二度実施しました。七月下旬に新潟大学での合宿。大学生との合同練習が中心でした。八月月上旬には大東文化大学での合宿。大学生チームとの練習試合が中心でした。大学生のプレーを見る事ができ、大変参考になりました。また、チームワークも形成されていきました。八月下旬に行われた県北大大会では、五位に入賞し、新人大会のシード権を獲得することができました。十一月下旬に行われた新人大会では、順当に勝ち進

むことができました。県でベスト8の実力を持つ児玉高校に敗れたものの、見事第三位という成績を残すことができました。そして、来年の一月に行われる新人大大会への出場権とシード権を獲得しました。現在、内藤先生のご指導のもと県大会へ向けての練習に励んでいます。県大会では、よい成績が残せるよう頑張りたいと思います。



五十年振りの母校訪問 新武道館にて

図書寄贈を  
よろしく  
お願いします

